

# 日本遺産



1\_手を取り合う菊池川流域4市町の首長(右から江頭実菊池市長、中嶋憲正山鹿市長、高崎哲哉玉名市長、福原秀治和水町長) 2\_ミネラル豊富な水と豊かな大地が生み出す菊池のコメは全国で高い評価を受けている

## 米作り、二千年にわたる大地の記憶

### 「菊池川流域「今昔『水稻』物語」」

一度は選外に  
再挑戦で悲願の認定

県と菊池、山鹿、玉名、和水の4市町が日本遺産認定を目指し、菊池川流域日本遺産認定推進協議会を設立したのは平成27年10月でした。おいしいコメをテーマにしたストーリーで挑戦しましたが結果は選外。文化庁からは「インパクトが薄い」と

指摘されてしまいました。

市生涯学習課で日本遺産を担当する佐伯明日香主任主事は「文化財を羅列してストーリーでつないだだけの単調な内容でした。練り直して再挑戦しようと、直後の協議会で声があがりました」と振り返ります。専門家のアドバイスをともに協議を重ね、菊池川流域に受け継がれた米作りの土地利用法

と、関連する文化財のストーリーを作り上げました。満を持して臨んだ結果、悲願の認定を獲得。応募は全国から79件。うち登録は17件でした。「米作り文化の希少性が認められてよかった。4市町で連携して日本遺産を活用し、地域を盛り上げたい」と佐伯さん。菊池川流域の活性化に期待を込めました。

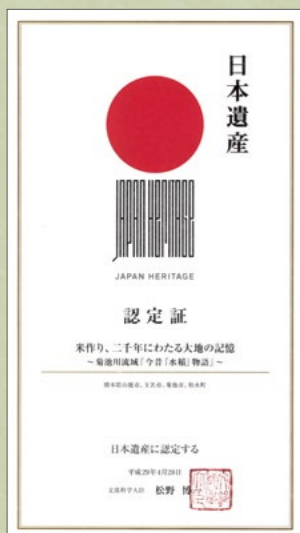


地域に根付く伝統や歴史を紡いだストーリーを文化庁が認定する制度「日本遺産(Japan Heritage)」に、菊池川流域の米作りに関わる話をまとめた「米作り、二千年にわたる大地の記憶」菊池川流域「今昔『水稻』物語」が選ばれました。太古から、米作りと歴史を共にしてきた菊池川流域。脈々と受け継がれてきた文化と伝統が、いま注目を集めています。

【問い合わせ先】

生涯学習課社会教育係 ☎0968(25)7232

七城町前川区に伝わる馬作り。毎年1月2日に22戸の住民が集まり作っている



▲日本遺産の認定証

### 日本遺産とは

地域に点在する文化財や伝統行事などを、テーマに沿ったストーリーとして構成し、認定を受ける制度です。「日本遺産」としてブランド化することで、観光資源はもちろん、地域住民が地域の魅力を再発見し、高めて発信していく地方創生の起爆剤としても期待されています。

平成27年度から毎年1回の選考があり、東京五輪までに国内100件を選ぶ予定。平成29年6月現在で全国から計54件が名を連ねています。



# 菊池の文化財・伝統芸能

日本遺産で認定を受けた文化財は4市町から33件。このうち本市から選ばれた14件を紹介します。



**1 菊池川**  
米作りに必要な肥沃な土と清らかな水をもたらす河川。阿蘇外輪山が源。本市から玉名平野に出て有明海に注ぐ、71キロの1級河川。江戸時代を中心にこの地域の物流の大動脈だった。



**4 菊池渓谷**  
菊池川の源流。阿蘇の伏流水が多くミネラル分を含み、農作物に恵みをもたらしている。



**5 菊池川流域の装飾古墳群**  
米作りにより繁栄した流域の装飾古墳は117基を数え、国内一の密度を誇る。



**2 菊池川流域の弥生時代の大集落遺跡群**  
大規模な集落の遺跡からは、鉄器など米作りを示す道具が数多く発掘されている。



**6 菊池川流域の灌漑施設**  
水田に水をひくための用水路やため池。本市からは原井手や築地井手などが認定。



**5 鞠智城跡**  
米を備蓄した古代の軍事補給基地。大量の炭化米や米倉跡が確認されている。

## ■ストーリーを構成する文化財

No.	文化財の名称	所在地
1	菊池川	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
2	菊池川流域の弥生時代の大集落遺跡群	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
3	菊池川流域の装飾古墳群	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
4	菊池渓谷	菊池市
5	鞠智城跡	菊池市、山鹿市
6	菊池川流域の灌漑施設	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
7	富田式暗渠排水技術	菊池市 ほか
8	菊之城跡、赤星舟着場	菊池市
9	菊池の松囃子	菊池市
10	正観寺・菊池五山	菊池市
11	玉祥寺このみや踊り	菊池市
12	菊池川流域の雨乞い習俗(踊り、太鼓、仏像洗い)	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
13	菊池の風鎮祭・土阿弥陀・馬作り	菊池市
14	肥後神楽	玉名市、山鹿市、菊池市、和水町
15	岩原双子塚古墳・江田船山古墳	山鹿市、和水町
16	菊池川流域の条里跡区画割	玉名市、山鹿市
17	御宇田井手	山鹿市
18	番所地区の棚田	山鹿市
19	旧玉名干拓施設	玉名市
20	菊池川の中世河口港関連遺跡群	玉名市
21	菊池川下流域の船着場と港町	玉名市
22	高瀬御蔵跡・御茶屋跡	玉名市
23	山鹿湯町豊前街道沿いの歴史的町並み	山鹿市
24	菊池川流域の酒造り	和水町、山鹿市
25	八千代座	山鹿市
26	大浜外嶋住吉神社年忌祭	玉名市
27	七郎神大祭	和水町
28	長坂なれなれなすび踊り	山鹿市
29	阿佐古かせいどりうち	山鹿市
30	梅林天満宮流鏝馬	玉名市
31	このしろの丸ずし	玉名市、山鹿市
32	ガネめし	和水町、山鹿市
33	赤酒	山鹿市



**8 菊之城跡、赤星舟着場**  
中世に米作りの発展に寄与した菊池氏の初代則隆が構えた居館跡と船着場跡。



**7 富田式暗渠排水技術**  
明治時代に七城出身の富田甚平が開発した湿田を乾田化する効率的な排水法。



**10 正観寺・菊池五山**  
正観寺は15代武光公の菩提寺。菊池五山は東福寺、西福寺、南福寺、北福寺、大琳寺からなる。



**9 菊池の松囃子**  
15代菊池武光公が懐良親王を迎え、年頭の祝儀として行ったことを起源とする芸能。



**12 菊池川流域の雨乞い習俗**  
降雨を願った神事や風習。住吉日吉神社では「住吉日吉神社雨乞太鼓」が行われている。



**11 玉祥寺このみや踊り**  
五穀豊穰と地域の安全を願う例祭での踊り。女装した男性が太鼓をたたきながら踊る。



**13 菊池の風鎮祭・土阿弥陀・馬作り**  
米作りの農耕儀礼。風よけのため簀と笠を田に飾る風鎮祭、苗の活着のため土で仏像を固める土阿弥陀、農耕馬の健康を祈願する馬作り。



**13 菊池の風鎮祭・土阿弥陀・馬作り**  
米作りの農耕儀礼。風よけのため簀と笠を田に飾る風鎮祭、苗の活着のため土で仏像を固める土阿弥陀、農耕馬の健康を祈願する馬作り。



**14 肥後神楽**  
五穀豊穰を祈り舞われる。4つの市町に52の神楽が伝承されている。  
◀穴川夜神楽

地域に受け継がれてきた貴重な伝統と技術

菊池の松囃子や玉祥寺このみや踊りなどは、数百年を経て庶民の生活が大きく変化しても現代まで受け継がれました。風鎮祭や土阿弥陀、馬作り、雨乞い習俗など、農業にまつわる習わしは地域に根付き、大切に伝えられています。灌漑施設や富田式暗渠排水技術は、現役で活躍中です。

肥沃な大地ときれいな水が作り出す菊池川流域のコメは、江戸時代に将軍家や皇室へ献上しており、「天下第一の米」と称されました。最高品質の「肥後米」として大阪の堂島で取引される際は、特別な値がつくほどの人気だったといえます。当時の米相場を決定する基準米にも指定されていたそうです。

現代でも、七城地区のコメは、日本穀物検定協会主催の食味ランキングで最高評価の特Aを9年連続で獲得、「米・食味分析鑑定コンクール・国際大会」では2年連続の金賞に輝くなど高い評価を得ています。菊池川流域は今でも米どころとして歴史を歩み続けています。

2千年にわたり、米作りとともに歴史を歩んできた菊池川流域。平地には古代に造られた土地の区画が残り、高地での米作りを可能にした井手と棚田は現役で活用されています。先人たちの知恵や文化が生活に根付き、儀式や風習も受け継がれてきました。

肥沃な大地ときれいな水が作り出す菊池川流域のコメは、江戸時代に将軍家や皇室へ献上しており、「天下第一の米」と称されました。最高品質の「肥後米」として大阪の堂島で取引される際は、特別な値がつくほどの人気だったといえます。当時の米相場を決定する基準米にも指定されていたそうです。

現代でも、七城地区のコメは、日本穀物検定協会主催の食味ランキングで最高評価の特Aを9年連続で獲得、「米・食味分析鑑定コンクール・国際大会」では2年連続の金賞に輝くなど高い評価を得ています。菊池川流域は今でも米どころとして歴史を歩み続けています。



## 馬作り

### 地区の宝を守り続けていきたい

わらを編み込み、農耕馬の健康を祈願する馬作り。龍門の中片区と虎口区、七城町前川区の市内3地区で伝わっています。前川区の川上龍誠区長は「今は農業に馬を使わないし、農家も減ってしまった。生活は変わって来けれど、馬作りは脈々と受け継がれている」と話します。

もともとは地区の少年が作っていました。しかし現在、龍門の2地区を合わせて子どもはわずか3人。前川区は20年ほど前から男子がいないそうです。「絶やすわけにはいかなからね。今は大人が作り続けて伝統を守っています」

龍門地域では昨年、区長らが地区の小学生を対



前川区長  
川上龍誠さん(前川)

象に馬作りの体験教室を開催。前川区も、今後は小学校での体験教室を考えているそうです。「日本遺産に選ばれ、うれしいのと同時に責任を感じます。先人たちの思いを後世に伝えるため、守り続けていきたいです」



1年間飾った馬は木の枝に掛けて、自然に身を任せ朽ちていく

## 菊池の松囃子

### 由緒ある伝統を伝える使命感

南北朝時代に始まった菊池の松囃子。約650年前の姿のまま、現代までほぼ形を変えずに伝わっています。

松囃子能で舞人を演じ、御松囃子御能保存会の会長を務める田嶋晴雄さんは「数百年の歴史を背負っている。菊池一族から伝わる由緒ある伝統を後世まで伝える使命がある」と語ります。

田嶋さんは祖父から舞人を継承。35年にわたり演じ続けています。息子の慎太郎さんは後見として参加。「将来は後を継ぐ予定なので、本当にうれしい」とほほ笑みます。受け継がれるものがある一方、途絶えてしまった民俗芸能も多くあります。「無形の文化財は一



御松囃子御能保存会会長  
田嶋晴雄さん(東正観寺)

度途絶えると再生が難しい。伝統芸能は地域の宝。大切に守り続けてほしいですね。今回の認定がその後押しになればうれしいです。私たちが菊池一族への畏敬の念を忘れず、伝承活動に取り組みたいです」



国立能楽堂で松囃子能を披露

## 玉祥寺このみや踊り

### 登録を機に存在を知ってもらいたい

女装した男性2人が太鼓を叩きながら舞う、玉祥寺このみや踊り。五穀豊穰や地区の安全、村の団結を願うため、春日神社の祭りの前夜祭として毎年2月27日に開催されています。このみや踊り保存会会長の味府秀次さんは「565年も伝承されている地域の宝。残してくれた祖先のためにも、何が何でも後世に伝えなければ」と強い思いを打ち明けます。

地域の宝を残すべく平成25年にこのみや踊り保存会を立ち上げ、歴史を調査しているほか、文書で記録を残しています。「少子化で若手が減っている。何もしなかつたら、いつか伝統が途絶えてしまう」と危機感を募らせ



発祥から1年も途絶えることなく、伝統は受け継がれている

日本遺産への認定を受け「とても光栄で、いっそう身が引き締まる。このみや踊りをアピールして、広く存在を知ってもらいたい。多くの人に見に来てほしいですね」と呼びかけています。



このみや踊り保存会会長  
味府秀次さん(玉祥寺)

## 米作り

### 水田は子どもの頃からの原風景

「水、土、気候。菊池川流域はおいしいコメを作る環境がそろっている」。そう語るのは、七城町で特別栽培米を作る霍田崇さん。昨年の菊池米食味コンクールで最優秀賞を獲得しました。

現在は8畝の面積で米を栽培。約15年前には「米のソムリエ」と言われる米食味鑑定士を夫婦で取得し、品質の高い米作りのために熱心に勉強を続けています。「おいしく体にいいコメを作りたいからね。食べる人に喜んでほしい一心で育てています」

しかし、近年は食生活の多様化で米離れが進み、販売価格は年々低下。農家の高齢化や後継者不足も大きな問題です。今



昔から変わらない田園風景は地域の宝

回の認定が菊池の米文化を見直すきっかけになればと考えています。「この地域は長年、米作りとともに歩んできた。水田は子どもの頃に見た原風景。昔から受け継がれた景色を守り、次の世代にバトンをつなぎたい」



米生産者  
霍田 崇さん(高田)

日本遺産を次の世代へ

# 伝統を受け継ぐ者たち

地域に伝わる伝統や風習の灯を絶やさないう、現代に伝える人たちがいます。



私たちにできること

日本遺産では、菊池川流域の人たちの生活に、当たり前のように存在していた風習が脚光を浴びました。地域の人々が大切に守り続けてきたものが今、日本を代表する魅力として認められたのです。

しかし、中には市民に知られていなかったものや、保存が危ぶまれるものもあります。これから日本遺産を地域おこしにつなげていくためには、まず私たち一人一人が遺産のことをよく知り、愛着を深め、次世代に伝えていくことが大切ではないでしょうか。

今回認定された文化財は、来月からシリーズでお届けします。ぜひご覧ください。

